

# 愛知県立大学における グローバル人材プログラム

愛知県立大学グローバル人材育成推進室准教授 大山 守雄

OHYAMA Morio

キーワード： グローバル人材育成、多言語学習、留学サポート

## 1. はじめに

愛知県立大学では、文部科学省の助成を受け、2013年4月から外国語学部で「グローバル人材プログラム」(タイプB特色型)がスタートしました。愛知県立大学第二次中期計画(平成25年度～平成30年度)における外国語学部の人材育成方針である「21世紀国際社会を創造し、地域社会に貢献するグローバル人材の育成」を達成するための「学士課程における発展的留学制度を通じたグローバルキャリア育成プロジェクト」として取り組んでいます。この事業では「外国語学部学生の60%以上が単位認定を伴う留学(期間は1ヶ月～1年)をする」という目標を設定しています。本学の外国語学部の学生は1966年の創立以来、海外留学体験者が多い点が特徴で、「内向き」と言われる昨今の若者像とは異なります。しかし、これまで大学として留学前の指導や留学後のフォローが十分であったとはいえ、必ずしも留学体験をキャリア形成に結びつけてきたとは言えません。留学を、大学教育に位置付け、留学前から留学後までを、一貫した教育としてとらえ、グローバル人材を育成するために、各段階で必要な能力を育てる、体系的なプログラムを組み立てたのが今回の狙いです。

## 2. 目指すグローバル人材とは

愛知県立大学の「グローバル人材プログラム」で目指すグローバル人材としての能力や知識は次の8点にまとめることができます。

- 1) 高度な語学力：複数の外国語の運用能力を持ち、少なくともそのうちの一つで、チームやパートナーと協力して仕事を完成できる。また相手の考えを正確に理解し、自分の考えも相手に的確に伝えることができる。
- 2) 国際教養：日本の社会や文化に関して、相手に正確に伝えることができる。諸外国の歴史、文化、宗教、習慣、ルールなどについての知識がある。国際プロトコルやマナーの心得がある。
- 3) プレゼンテーション・スキル：日本語と外国語で、聞き手や目的に応じて、効果的なプレゼンテーションができる。
- 4) 情報リテラシー：さまざまな情報源から、適切に情報収集ができる。基本的なコンピュータソフトを使いこなし、情報セキュリティについての知識がある。
- 5) 広義のコミュニケーション能力：さまざまな文化背景を持った人と意思疎通を図り

つつ、信頼関係を築くことができる。他者に働きかける「発信力」、話し合いを通じて合意形成ができる「対話力・交渉力」、必要な関係を作る「ネットワーク構築力」を持っている。

- 6) 異文化適応能力：文化の多様性を受け入れ、いかなる環境でも適応できるタフなマインドを持っている。
- 7) 課題発見・解決力：常に問題意識を持ち、新しいテーマを見つけ出すことができる。それを問題解決やイノベーションに結びつけることができる。
- 8) マネジメント能力：多様な人々をまとめていくリーダーシップや、グループの意見を受け入れまとめていく「調整力」、相互理解や合意形成の手助けができる「ファシリテーション能力」がある。

これらの能力を体系的に身に付けるために、本学の「グローバル人材プログラム」では指定 22 科目に加え、2013 年 4 月にオープンした iCoToBa（愛称「アイコトバ」）という多言語学習センターで開講している語学科目や、インターンシップなどを必修としています。このプログラムで学び、専攻外国語と第 2 外国語の到達目標を満たすと、卒業時に「グローバル人材プログラム修了証書」（3 年終了時には「グローバル人材プログラム受講証明書」）を発行することにしています。



学生で賑わうランチタイムの iCoToBa



iCoToBa で授業を受ける学生たち

### 3. 留学前の準備

まずは、入学時のオリエンテーションにおいて留学やグローバル人材への強い動機付けを行った上で、1～2年時に「留学前プログラム」を履修させ、言語習得はもちろんのこと、一定の国際教養やコミュニケーション・スキルを身につけさせ、明確な目的意識をもって留学するよう導いています。iCoToBa では、留学アドバイザーと語学学習アドバイザーを配置して、学生たちの相談に対応するとともに、学部の通常授業とは別に英語（2 人）、フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語のネイティブ教員による、少人数の実践的語学クラスを提供しています。具体的には以下の 4 タイプの授業構成となっています。

- 1) 語学力を強化するための授業

- 2) 各言語圏の社会や文化について理解を深めるための授業
- 3) グループで課題を決め、外国語を用いてプロジェクトワークを行う授業
- 4) 語学検定対策

英語を例にとると、次のようなものが開講されており、米国人及びオーストラリア人の教員と語学学習アドバイザーが協働してコース設定をしています。Survival English, J-Ambassador(英語で日本のPR), Pronunciation Profiles, Today's Top News, Note Taking & Academic Listening, Debate, English Improvisation, Report Writing, One-minute Speech, E-mail/ Letter/ Blog Writing, The English-Speaking World, Research Project and Presentation, Group Discussion, TOEIC/TOEFL/IELTS 対策など、学部の正課と異なる性格の授業を開講しています。他の4言語と言語圏の文化についても同様に、上記の4タイプの授業が開講されています。各講座はCEFR(Common European Framework of Reference for Languages)による言語レベルを提示して、受講者及び教員の期待値の調整をしています。初めて学習する外国語の場合は、英語の場合よりも入門・初級レベルの授業数を多くし、学生がスムーズに外国語学習を始められるよう、配慮しています。

#### 4. 多言語学習支援スペースの設置

前述の iCoToBa という多言語学習センターは、愛知県立大学グローバル人材育成プログラムの中核となる学びと交流の場で、本学の外国語学部の特徴を生かした多言語学習を支援するために設けられました。ラウンジでは種々な言語による会話練習が行えるように、ネイティブ教員と自由に外国語で話す時間が設定されています。このプログラムを担当する教員は全員が英語と日本語も話せるマルチリンガルなので、多言語を同時に話す環境が自然と作られています。ランチアワーともなると、外国人留学生も加わって、複数の言語が飛び交っています。このほかにも iCoToBa では県内の留学生を招いての討論会、外国人アーティストによるコンサート、ポルトガル語やロシア語など専門外のさまざまな言語の自主学習会などが催されています。「学生共同プロジェクト」のクラスでは、留学後の学生たちが自分が留学していた教育機関のマニュアル作りにも取り組んでいます。

本プログラムでは語学力の向上だけでなく、学生たちが自主的に各種イベントを企画して、マネジメント能力を磨くことも応援しています。協定大学から本学に留学している交換留学生や、サマープログラムに参加する日本語研修留学生のための Welcome Party や Farewell Party はもちろん、Jカフェと呼ばれるラウンジでの交流授業の企画・運営も学生の手任されています。夏休みを利用して行われた英語と中国語の Immersion 合宿の企画・運営もインターンシップの一部として学生たちに委ねられ、学生たちは定期的に iCoToBa に集まり念入りな準備をしました。初めての試みにもかかわらず、招待された高校生と一緒に語学学習の楽しさを味わうことができたと同時に、教員希望者には貴重なトレーニング機会にもなりました。秋からは海外留学から帰国した学生を招いて、毎週「留学体験発表会」を開催していますが、企画・広報・運営を学生たちが中心になって行っています。

ラウンジ横の自習スペースでは、e-Learning 教材のロゼッタストーンを利用して22ヶ国語が学べるほか、ALC NetAcademy 2でTOEIC対策をはじめ、Workout フランス語検定、Workout ドイツ語検定、中国語検定過去問 Web、AVE（スペイン語オンラインコース）などを活用して、どの言語の検定試験にも対応できるようになっています。

## 5. セルフマネジメント能力の育成

グローバルに活躍するためには自分自身の生活そのものを調整する能力である「セルフマネジメント能力」を伸ばす必要があります。「グローバル人材プログラム」ではインターネットを使ったポートフォリオシステムの **manaba** を導入しました。自分自身の学習計画、学習成果を記録し、自身の成長を振り返り、次の課題を見つけ出す手助けをしています。「グローバル人材プログラム」の授業登録を **manaba** ですることにし、教師との交信、ピアラーニングを取り入れた指導や、学生自身が自身の学習をコントロールする能力を身に付けるように指導しています。仲間からのコメントも寄せられ、読み手を意識した文章を書く練習にもなっています。

## 6. 留学中のサポート

留学中の学生は国際交流室とは定期的に **manaba** 上で情報交換をして、留学の事務的サポートを受けています。留学中の「リサーチ・発信プロジェクト」に取り組む学生は、**manaba** 上で留学アドバイザーと交信しながら、目的を持って留学生活を送ります。国内に残る学生と留学中の学生が協働して、**manaba** を利用したアンケート調査やインタビューなどのプロジェクトワークも可能で、ネットワーク環境さえ整っていれば、バーチャルなグローバルキャンパスになりえます。画像、音声、動画などのファイルもアップできますので、留学中の学習記録を蓄積して、卒論準備や就職活動にも大いに生かすことができます。

## 7. 地域性を生かす教育

愛知県は日本の製造業の集積地として、大企業に限らず中小企業においてもグローバルにビジネスを展開している企業が多数あり、グローバル人材のニーズは特に高い地域です。そのみならず、ブラジルなどの南米系住民をはじめ多数の外国人が居住し、さらに観光誘致、国際会議の開催を積極的に推進しているという特性を持った地域でもあります。外に向かって活躍する人間だけでなく、地域内部においても「グローバル人材」が強く求められています。こうしたローカル・ニーズに応えることのできる、豊かなコミュニケーション能力、グローバルかつローカルな視点を備えた、真の意味での国際人の育成を目指しているのも愛知県立大学のグローバル人材育成推進事業の特徴です。

## 8. おわりに

プログラムがスタートして半年ということで、試行錯誤や手付かずの部分も残っていますが、留学後の語学力を維持するためのプログラム、各種の国際的インターンシップへの参加などを通じて、卒業時には所期の目標を達するべく、実績を積み上げているところです。